

会議の概要

令和3年度 第2回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

- 兼 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
○ 玉井小学校学校運営協議会

日 時：令和3年6月25日（金）16:30～18:00
場 所：玉井小学校 体育館

（進行：玉井小教頭 根本 芳弘）

1 開会のことば （おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 吉田 都）

皆さん、こんにちは。今日は蒸し暑い中お疲れ様です。それでは、令和3年度大玉村立玉井幼稚園・玉井小学校 学校運営協議会、第2回おおたま学園コミュニティ・スクール委員会（以下CS委員会と略記）を行います。よろしくお願いいたします。

2 教育長あいさつ （大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎）

皆さん、こんにちは。時間が大変短い中でこれから始めるわけですが、まず御礼を申し上げます。今日のオープンスクールで授業をされた先生方、それからいろいろと関わってくださった先生方、本当にありがとうございました。また、大変お疲れの中、幼・小の先生方全員に参加していただき感謝申し上げます。

9回のCS委員会のうち、学校に特化した協議会を3回用意している（玉井幼小、大山幼小、大玉中）。そして、本日の会議の要項は、玉井小に全て作成していただいた。テーマを4つ設定し、これらに基づいて話し合いをしていただくことになると思うが、これらは全て今大玉村で課題となっていることでもある。それぞれの立場から意見を出し合って、少しでも解決の見通しを立てることができる会議にしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。



3 おおたま学園CS委員会会長あいさつ （おおたま学園CS委員会会長 伊藤和弥）

皆さん、こんにちは。今日は午後から授業参観、分科会、そしてこのCS委員会にご出席いただきありがとうございます。

私も3年生の算数の授業を参観し、その後分科会に参加させていただきました。その中で、教育委員会の斎藤指導主事が学校の先生だったんだと改めて感じた。新鮮な驚きとすごい先生なんだと感心した。そして、今回CS委員の皆様に分科会にも多く参加いただいた。授業、分科会を通して参観して、

先生方が、子どもたちに「どういうふうに教えたらいいか」を本当に一生懸命に考え、努力されている姿を見ることができた。これからの協議においても参考になるのではないかと思う。



今日は、玉井幼・小の先生方と一緒にグループになりお話しする機会があるので、楽しく有意義な時間を過ごしていただければと思います。本日はよろしく願いいたします。

4 玉井小学校・幼稚園出席者自己紹介

本日参加した玉井幼・小の教職員が自己紹介を行う。

5 協議

(1) 本校・園の教育活動について及び本日のテーマについて (玉井小学校長 小林 雄)
それでは本校・園の教育活動及び本日のテーマについてパワーポイントを用いて簡単に説明します。

① 玉井幼稚園

教育目標は、「自分やふるさとに誇りをもち、夢や希望に向かう子ども」で、「自ら考える子ども」「心豊かな子ども」「たくましい子ども」を目指して教育活動に取り組んでいる。

ア「自ら考える子ども」の育成

- 主体的に活動する意欲の育成
 - ・子どもたちが活動を選択する環境の工夫
 - ・個に応じた支援の工夫
- 遊びを創造しようとする意欲の育成
 - ・絵本や物語に親しむ環境の工夫 (読み聞かせ他)

イ「心豊かな子ども」の育成

- 思いやりの心の育成
 - ・葛藤体験を通して、相手の気持ちを考える場の工夫 (“Thinking Time” の実践) については昨年度から取り組んでいる。
- 豊かな体験活動の充実
 - ・コロナ対策を十分に講じながら、サクラランボ狩り、遠足、さつまいもの苗植え等の体験をしている。

ウ「たくましい子ども」の育成

- 自ら体を動かして遊ぼうとする意欲の育成
 - ・思い切って体を動かす場や時間を確保し実践している。
- 健康で安全な生活をする力の育成
 - ・コロナ対策の継続と徹底を図っている。また、交通教室や避難訓練等安全な生活のための正しい理解と実践に取り組んでいる。



② 玉井小学校

教育目標は、「自分やふるさとに誇りをもち、夢や希望に向かう子ども」で、「自ら学ぶ子ども」「心豊かな子ども」「たくましい子ども」を目指して教育活動に取り組んでいる。

ア「自ら学ぶ子ども」の育成

- 基礎的な学力の育成と学習習慣の確立
 - ・学習の規律の向上
 - ・家庭と連携した家庭学習や読書の習慣化を図っている。(ex.朝読…)
- 主体的に学び合う授業づくり
 - ・教職員が充実した研修を行い授業改善に取り組む。
 - ・ICTの活用は今後取り組んでいく。教職員もICT支援員の指導を受けるなど研修に努めたい。
- 実践力の向上を図るための体験的学習の充実

- ・地域の自然や施設、人材、伝統文化を活用して、学習活動の充実につなげるようにしている。
- ・CS副会長の矢吹さんに4年生の総合「地域で働く人々について調べよう」の単元で講義をしていただいた。

イ「心豊かな子ども」の育成

- ・道徳教育の充実や特別活動の充実を通して、集団の一員としての自覚、日常生活をより良いものにしようとする態度の育成に努めている。各学級に学級目標をしっかりと掲げて生活をしている。
- ・一人一人を大切にした生徒指導の充実に取り組んでいる。

ウ「たくましい子ども」の育成

- 体力・運動能力の向上と日常化に向けた指導の充実
 - ・体力・運動能力の向上に力を入れている。今年度、コロナ感染症対策を講じて運動会を実施した。スポーツテストも地域の方々に協力いただきながらしっかりと取り組んでいる。
- 健康な生活に向けた実践力の育成
 - ・様々な子どもたちの活動において、地域・保護者の力をお借りしながら効果的な教育活動を展開することができている。
- 自分や他者の命を守る教育の実践
 - ・今年度も新型コロナに対する正しい実践を徹底するとともに、他者の命を大切にしようとする実践にも力を入れている。

③ 本日のテーマについての説明

今日は様々な活動の中から4つのテーマを設定した。本日の学校運営協議会において、CS委員の方々にご協議いただきたいテーマについて簡単に説明する。

<4つのテーマ>

- ア A・B班：「ICTの効果的な活用と家庭におけるメディアとの正しいかかわり方」
- イ C・D班：「望ましい読書習慣の確立」
- ウ E・F班：「幼・小・中一貫的教育の推進」
- エ G・H班：「地域と共に歩む教育の推進」

ア「ICTの効果的な活用と家庭におけるメディアとの正しいかかわり方」について

- 今年度より児童一人1台のタブレットが配置されるなど教育ICT環境の整備により、学習活動の一層の充実や、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が期待される。～中略～
また、一方で、家庭での児童のメディアにおける時間や使い方の課題が見られている。メディアの特性を理解し、家庭との連携を図りながら、正しい活用の習慣化の定着に努めている。
- 今月全児童にSNS、ネット利用についてアンケートを行った。
 - ・約8割の児童がネットを利用している。特に動画サイトを視聴したり、通信ゲームを使っていたりする子が多い。
 - ・自由に使える自分専用の機器を持っている者は60%。
 - ・利用時間 … 3時間以上やっている割合が平日5.9%、休日約20%
 - ・ネット、SNS利用時トラブルになった経験がある者 … 5%程度
内訳は、「使い方によってトラブルになった」、「悪口を言われた」等
- 幼稚園では、年少組でもユーチューバーごっこをして遊んでいる（家庭における視聴時間の長

時間化)。登園時にスマホを見ながら歩いてくる園児、幼稚園で「スマホが見たい。」と泣く園児の姿が見られる。

- 課題としては、「情報活用能力の育成」と「家庭との連携によるメディアコントロール」があげられる。

イ「望ましい読書習慣の確立」

- 子どもたちが読書の楽しさを実感し、生涯にわたって望ましい読書習慣を確立できるよう、学校・家庭・地域が連携して子どもの読書活動を推進する。
- 校内現職教育で、「本を読むことが好きか」「本の読み聞かせは好きか」「図書室でどのくらい本を借りるか」についてアンケートをした。結果として、
 - ・「子どもは読書が好きである」ということが分かった。しかしながら、図書室からはほとんど本を借りない児童（2年生11%、3年生27%、4年生8%、5年生4%、6年生16%）もあり、本は好きなのだが、一方で読書離れが進んでいる傾向があるということが分かった。
 - ・今年度からの取組 … 国語の授業等で、学校司書に本の紹介をしていただく。
- 子どもたちが読書に親しむ機会を増やし、その内容を充実させる必要がある。「発達段階に応じた読書活動の充実」が課題であると感じている。

ウ「幼・小・中一貫的教育の推進」

- 新型コロナ対策を講じながら、幼・小・中の子どもたち及び教職員の交流を積極的に推進し、子どもたちを中心に据えた校種を超えた学び合いを大切にすることに努める。
- 現状は、交流が難しい状況である。様々な工夫をしながら進めている。
〈幼小の交流について〉
 - ・今年度はあさがおの種まきを小学1年生の代表が幼稚園に行って教えてきて、それをもとに幼稚園のみんなで植えていた。
 - ・小学生が七夕飾りの作り方をビデオに撮影し、幼稚園児に教えてあげた。
 - ・「小学校1日体験」…先生と幼稚園児だけの活動体験に変更した。
- コロナの影響があつて思い切った遠出ができないのだが、何とか工夫してできないか努力している。6年生の中学校体験については、教頭先生に來校いただき中学校の生活についていろいろと紹介していただいた。
- 今後も工夫を重ねながら校種を超えた学びの充実を図っていきたい。おおたま学園においても幼・小・中の交流活動をしている。各委員会での取り組みがあるので、それを踏まえた工夫をしていきたいと考えている。

エ「地域と共に歩む教育の推進」

- 『地域とのかかわりを語る児童の育成』のために
CSを生かして、児童・園児、教職員、家庭、地域が目的を共有しながら、連携・協働した教育活動をさらに充実したものにする。
- 今年度も地域の方々に学校支援に入っていていただき充実している。昨年度の学校運営協議会でも話したが、子どもたちが支援を受けるだけでなく、「地域に貢献する」「地域に還元する」「地域と一緒に学ぶ」ような取り組みを充実させていくことが大事である。子どもたちが現在の取り組みをさらに発展させて、「児童」を主語にして
 - ・児童が、保護者や地域の人とのつながり、話し合ったり活動したりする。
 - ・児童が、保護者や地域の人と協力しながら活動する。
 - ・児童が、教職員、保護者、地域と地域情報を交流し、地域のよさや課題を考える。

・児童が、教職員、保護者、地域と共に目標や目的を共通理解する。

等の取り組みを通して主体性を育てていきたい。それが、「地域とのつながりの実感」につながっていくのではないかと考える。地域とのつながりを実感しながら、主体的に学んだり、活動したりすることは今後の課題でもある。

(2) 協議の進め方について (玉井小学校長)

～ 略 ～

(3) グループ別協議

※ 各グループごとに進行

(4) グループ別協議の発表・共有

① 同じテーマのグループとの共有

～ 略 ～

② 全体共有

～ 各班の司会者による発表 ～



A・B 班 「ICTの効果的な活用と家庭におけるメディアとの正しいかわり方」

- A・B班で共通していることは、「ICTは子どもの将来に不可欠」ということを踏まえた指導が重要であるということである。
- 公共の中での利用の仕方、メディアの使い方を指導していくことが必要である。
- 家庭にお願いする（協力してもらう）ことが多い。学校だけでは限界がある。
- 改善センター付近でメディアを持ち寄って遊んでいるという話がある。外でどのように使っているか分かりにくい。どのような使用の仕方がよいか指導していく必要がある。
- メディアに関する研修の場があったらよい。

(お便り、集まって講話を聴く機会等)

※ (感想) 6年2組の根本先生の理科の授業は、分かりやすくワクワクするものだった。子どもたちは、現在タブレットの効果的な使い方について学んでいる最中なので、保護者もメディアを悪者扱いするのではなく、情報を正しく選ぶという観点から研修すべきだと思う。



C・D 班 「望ましい読書習慣の確立」

- 幼い頃からの読書の習慣づけが大切で、そのためには何ができるのかを話し合った。
- 親と一緒に「0歳からの取り組み」が大切である。
- 学校で読む機会をつくっているのもっと学校支援（読み聞かせ）ボランティアが参加してもいいのではないかと（ただし、具体的な日時や時間等をはっきりさせる）。朝の時間帯等に短い時間でいいので読み聞かせを行うことも効果的である。具体的な発信をしていくことも大切。
- メディアとのバランスを取る。空いている時間を親子での読書の機会にすることもよい。
- ふるさとホールの図書コーナーをもっと活



用してもらうために、施設の名称を本をアピールしたようなものに変える。

- おおたま広報で短い「語り」を流してもらう。いろいろな方の読み聞かせや語りが大事で、本と出会うきっかけづくりにもなる。

E・F 班 「幼・小・中一貫的教育の推進」

- 幼・小の交流
 - ・ 1年生が幼稚園に行き、あさがおの種のまき方や七夕飾りの作り方を教えることが、お兄さんお姉さんになる（成長する）ことにつながっている。
 - ・ 5年生と年長組の交流は、次年度の6年生と1年生の関わりにつながっていく。交流を通して、それまで小さい子とあまり関わりをもちたくないと思っていた子が、6年生になったら、この子たちをお世話しなければならないので積極的にやろうというふうに変わってきた。いっしょにパプリカを踊ったのだが、5年生が園児に踊り方を教え、園児が発表会でそれを披露した。子どもたちにとってとてもよい経験になった。
- 小・中の交流
 - ・ 一昨年度までは、中学校の先生が小学校に来て6年生に授業を行ったり、6年生が中学校に行き様々な体験をしたり、生徒会の人たちが中学校について教えたりすることで、6年生が中学校に行くという気持ちを高めていくよい経験になっていた。去年はコロナの影響でできず、子どもたちがとても悲しんでいた様子が今でも思い浮かぶ。しかし、そんな中でも中学校の教頭先生が来てくださり、動画や映像等で中学校のことを紹介してくれたことで、中学入学への気持ちが高まった。
 - ・ コロナ禍で子どもたち同士が会うことが少なくなったのだが、タブレットや動画を使って少しでも交流することで、気持ちはつながっていくのではないかと。また、コロナにより子ども同士が交流できないのであれば、タブレット、アイパッド等を使って交流していくのはどうかという話し合いになった。
- 地域の活動のこと
 - ・ もっと保護者に参加してほしい。学校支援CNをお願いしてボランティアを依頼したり、学校からも「こんなボランティアがほしい」ということを発信してはどうか。保護者も学校に協力したいという気持ちがあるので…。



G・H 班 「地域と共に歩む教育の推進」

「地域と共に歩む教育」については充実期に入っているのではないかといつも話している。とてもよい状態で進んでいると感じている。更なる充実を図るために以下の2点について力を入れていきたい。

- 地域への還元
 - ・ 方法を工夫しながらお年寄りの方と交流したり、子どもたちの作品を様々な所に掲示したりすることで、地域に対して還元・貢献できるのではないかと。
 - ・ 大玉の米、野菜を作っていくような活動体験を展開することが、地域に貢献することにつながるのではないかと。ただ、教師が形式的に「これをやりなさい」としたのでは子どもたちは地域を語れない。何をしたいのか、何ができるのかを子どもたち自身に考えさせて、そこに教師が指導を加えながら、地域にさらに関わっていければいいのではないかとという話が出た。
 - ・ 幼稚園のクリーン活動はとてもいい活動なので、子どもの思いを高めながら取り組んでいければよい。

○ 保護者への働きかけ

- ・「もっと保護者をまきこみたい」「保護者の皆さんに活躍いただきたい」「保護者の皆さんと一緒に子どもたちの教育をしたい」という気持ちを持っている。どのようなしたら今以上に保護者が参加できるのだろうかという話し合いになった。
- ・大玉村の地域学校協働活動では、地域の方が簡単にボランティアをすることができるのだが、今後さらに充実させるためには、学校が発信をしたり、保護者の皆さんに主役になってもらって、保護者の方が何かを教えてくれるような場を作るとか、地域と保護者と児童、この3者が関わる活動（例えば田植え踊りの着付け等）があると、保護者はもっと積極的になるのではないかと。



6 講 評

(おおたま学園CS委員会会長)

皆さんお疲れ様でした。これら4つのテーマは、それぞれが課題であって、こうすれば必ず上手くいくということはないのだが、こうして協議することを通してその糸口が見出せると思えました。いずれにしても、私たち地域が子どもたちを含めた中で相談しながら、解決の方向性を見出すことができると考えます。本日はありがとうございました。

7 御礼のことは

(玉井小校長・幼稚園長)

本日は、本当にありがとうございました。CS委員の皆様は幼稚園・学校に対するいつもながらの熱い思いとご支援をありがたく感じています。

本日は大変貴重なご意見をいただきました。その意見をきちんと整理して、すぐにできること、計画的に行うこと、学校でできること、家庭にお願いして進めること等明確にして子どものために取り組んでいきたいと思えます。本校の教職員は本当に楽しい先生ばかりなので期待していただきたいと思えます。本日はありがとうございました。

8 閉会のことは

(おおたま学園CS委員会副会長 吉田 都)

皆さんお疲れ様でした。以上をもちまして、令和3年度大玉村立玉井幼稚園・玉井小学校学校運営協議会並びに第2回おおたま学園CS委員会を終わります。ありがとうございました。